

## 和文抄録

### 通常学校の教員におけるインクルーシブ体育に対する態度 - Moberg Attitude Scale を用いて -

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4118022  
氏名：杉浦 貴紀

#### 【目的】

本研究では、今後のインクルーシブ体育の推進において検討すべき要因を明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

調査Ⅰでは、小学校 4 名の特別支援教育コーディネーターに対して半構造化インタビューを実施した。さらに調査Ⅱでは小学校教員 123 名に対して質問紙調査を実施した。

#### 【結果】

調査Ⅰの結果、A 校と B 校に共通する「連携」、「交流」の二つのカテゴリが抽出された。調査Ⅱの結果、彼らはインクルーシブ教育に対して推進していくべきであると肯定的に考えている。しかし、人員が確保できておらず、現実的に取り組むのは難しい。

#### 【結論】

第一に、学校現場において特別支援教育を推進していくためには、児童同士の「交流」を行える環境づくりが必要であり、学校の枠を超えた連携が重要である。そして第二に、インクルーシブ体育を通じた児童間の交流によって子どもの能力を伸ばす可能性が大きいことが考えられ、円滑に進めていくためには、教師間の連携による指導が有効である。しかしながら、インクルーシブ教育に対しては肯定的に考えているものの、学校現場ではそれに対応するだけの人員が確保できておらず、今後学校全体の課題として解決策を模索していかなければならないことが明らかとなった。